

荒木特許事務所 ゴマメ通信

(201405号)

発行人：発明を育てる会（千葉発明研究会）きむいりやく 肝入役

荒木特許事務所 弁理士 荒木 昭 生

住 所：(千葉本室)

〒 261-0004 千葉市美浜区高洲2-7-5-103

Tel/fax043-245-8721 Email:a-araki099@nifty.com

写真は、千葉市「花の美術館」で撮影したコスモスである。コスモスはギリシャ語で秩序、調和、宇宙を意味し、漢字では「秋桜」が当てられる。写真のコスモスは「オオハルシヤギク」と呼ばれるコスモスではないかと思われる。

チョコレートコスモスと言う紫色のコスモスはチョコレートの香りがするという。



コスモス H26. 9. 23撮影

この通信は、知的財産関連情報や時に感じる話題に関して、筆者のゴマメが自己の知人や友人に気の向くままに発信する一種のエッセーである。ゴマメの生存の証に「ゴマメの戯言」としてご笑覧くださいませ

発明家とイグノーベル賞

有名なノーベル賞の他に、人々を笑わせて、考えさせて呉れる研究に対して与えられる賞として、1991年に創設された「イグノーベル賞」というものがあることは、一昨年の本欄にも紹介した。

本年、米国マサチューセッツ州のケンブリッジ大学で行われたイグノーベル賞に、日本では、北里大学医療衛生学部の馬淵清教授チームが「物理学賞」を授賞した。これは「バナナの皮を踏むとなぜ滑り易いのか」を、実験で解明したことによるものだそうである。この研究がイグノーベルにではなく本当のノーベル賞に結びつけば良いと思う。

ゴマメの幼少の時分は、漫画の中でバナナの皮を踏んでスッテンコロリと転ぶ場面をよく見たものであるが、当時はバナナは高嶺の花で、触ったり食べたり、勿論現物を見たこともこともなかった。バナナを食べたのは就職して東京に出てきてからである。初ボーナスで田舎の親兄弟に食べさせたくて送ったバナナは、台風で汽車でが遅れたため、(九州まで急行列車で24時間掛かった時代である)1週間後に九州の自宅に着いた。バナナはどろどろに溶けていたそうである。

閑話休題、東京都知事選挙に幾度も立候補し、発明家としても出願件数3000件以上の発明を行っていると言う自称日本の発明王ドクター中松氏が、本年の前記イグノーベル賞授賞式で日本人初の基調講演を行い、自らの癌治療薬を発明すると発言したそうである。特許図書館の検索で彼の出願を調べてみたら、平成5年以降の特許・実用新案を合わせて128件の公報がヒットした。ゴマメがドクター中松氏に会ったのは40年ほど前であった。彼曰く、「自分は自宅の地下に通路を設けスピーカーの共鳴路として使用している」と話していたのを覚えている。ステレオなどの音響機器が急激に普及してきた頃である。ドクター中松氏の発明は、多種多様でありゴマメが使用している呼吸補助器である睡眠中無呼吸症用のCPAPも彼の出願リストに同種のものがあるが拒絶されている。少年の頃石油ポンプの原型を発明し、フロッピーディスクの原理も彼の発明と主張しているが異論もある。彼は2005年に「栄養学」の分野でイグノーベル賞を授賞しており、彼の発明を実行すれば144歳まで生きる可能性があるらしいから、必ず彼本人用の癌治療薬も発明できるに違いない。今度は本当のノーベル賞の授賞を期待している。